

農林水産部

宮古の島々には川がないので、農業はもっぱら降雨に頼ってきました。沖縄総合事務局は復帰後たくさんのボーリング調査を行い、昭和62年10月、世界初、大規模な地下ダム建設は世界初)の地下ダムによって農業用水を確保する事業に着手し、平成12年度に完了しました。

完了してまだ8年ですが、水が使えるようになった宮古島、来問島を含む)の畑では農業が大きく変わってきています。

今ある地下ダムでは、主に6月〜9月という期間限定の水しか貯められないのに対して、野菜や果樹のハウス栽培など1年中水を使う農業が急速に広がってきているのです。

そのため、このままでは、宮古島の農業用水が不足する心配がでてきたのです。

一方、隣接する伊良部島には排水路の水を貯めただけの小規模な水源があるだけです。これまでの調査結果から、地下ダムの適地がないことが



急速に広がる宮古島のハウス栽培

判っていて、かねてから水の豊富な宮古島の地下ダムの水を送水してもらうことが島民の願いでした。

新しい事業では、新たに宮古島に2つの地下ダムを造り、宮古島と伊良部島の農業用水を確保して、用水路などの整備を行うもので、伊良部島までは建設中の伊良部大橋(県道)の中に用水管を設置します。



キャベツ栽培への散水状況



宮古島特産のマンゴー



開所式(看板提示)の様子

沖縄総合事務局は、この事業を実施する機関として4月1日に宮古伊良部農業水利事業所を開設し、4月22日に開所式を執り行いました。

来賓からは、事業着工に対する謝意と農業用水の確保による宮古の農業発展に対する大いなる期待が述べられました。



世界初の大規模地下ダム事業が完了して8年、宮古島ではハウス栽培など水を使った様々な農業が急速な広がりを見せています。

しかし、今の地下ダムだけでは夏に使う水の量しか貯められません。

また、伊良部島には地下ダムの適地がなく、かねてから水の豊富な宮古島から送水してもらうことが島民の願いでした。

沖縄総合事務局は、新たに宮古島に2つの地下ダムを造り、宮古島と伊良部島の農業用水を確保して、用水路などの整備を行っています。

宮古伊良部農業水利事業所が開設 水を使った新しい農業のさらなる発展をめざして